

(図画工作)

## 自分の思いを豊かに表現する子どもを育てる

### —図画工作科の指導を通して—

大阪市立茨田小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

国際化や情報化など、変化の激しいこれからの社会を生きるために、子どもたちには、「生きる力」を育成していくことが必要である。「生きる力」とは、「確かな学力」と「豊かな人間性」、「健康・体力」のバランスのとれた力であり、「確かな学力」とは、知識・技能の習得はもちろん、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、問題解決する資質や能力のことである。本校の子どもは意欲をもって学習に取り組むことができるが、自身で思考したことを表現することに自信をもていないことが課題である。そこで、「自分の思いを豊かに表現する子どもを育てる」を軸とし、図画工作科の指導を通して「確かな学力」の一端を担う表現力の向上を図る実践を行ってきた。

## 2. 研究の趣旨

本校では、3年前より図画工作科の研究を行ってきた。研究主題を「自分の思いを豊かに表現する子どもを育てる」と設定し、教材や指導法を研究し、児童が自分の思いを意欲的に、豊かに表現できるようにと研究を進めた。本校児童の図画工作科の課題としては、知識や技能の習得度に大きな差があることと、意欲的に題材に取り組めても、思いを表現することに苦手意識をもつ児童が多いことであった。研究を通して、どの児童も意欲的に、豊かに自分の思いを表現できるようにしたいと考え、今年度も引き続き研究を進めてきた。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点①児童が興味・関心をもって取り組める題材の工夫

- ・教科書の題材を中心とし、児童が興味・関心をもって取り組むことができる題材を開発、設定する。
- ・図画工作科の年間指導計画を作成し、自分の思いを表現するために必要な技能やその学年で児童につけさせたい力を整理する。
- ・6年間で児童に表現する力がつくように、系統立てていく。

### 視点②基礎的・基本的な事柄の指導の工夫

- ・児童が自分の思いを表現するために必要な技法や技能や材料、用具の扱いなどの指導法について工夫する。
- ・あまり使ったことのない道具や画材の適切な使用法や表現に基礎・基本となる技能について研究を進める。

### 視点③鑑賞活動の充実

- ・作品の良さを互いに認められるように、鑑賞活動を工夫する。
- ・ICT機器を活用した鑑賞活動の工夫を行う。
- ・自分の表現や作品に対しての視点を、他者に伝えるための工夫を行う。

#### 視点④評価の在り方

目標に対して、評価の方法や指導者の価値基準について考える。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 教科書の題材を中心とし、児童が興味・関心をもって取り組むことのできる題材を設定した。模写や視写のような題材ではなく、学んだ技法を生かして工夫できる題材を選んだことで、どの児童も失敗をおそれずに意欲的に課題に取り組む姿が見られた。
- 板書における単元の題字を、その単元で使用する技法を用いることで、子どもが学習の見通しをもつことができた。
- 単元のはじめや作品の制作に取り組む前に、その単元で習得すべき技法や使用する道具を使い、どのような表現ができるか十分に試すことで、スムーズに、また表現豊かに作品の制作に取り組めた。筆洗やパレットの使い方、技法の例などを掲示しておくことで、児童は掲示物を参考に活動することができた。
- 手元の細かな活動を子どもに見せる際に、書画カメラを使うことで、子どもにとって分かりやすい指導となった。
- ペアやグループ、学級の半分、全体など、実態や単元に応じた鑑賞方法をとることで、児童は自分の表現していることや友だちの作品の良さに気づくことができていた。
- 鑑賞活動では、鑑賞の視点を提示することで、子どもたちは迷うことなく友だちの作品を鑑賞できていた。
- 自身の作品を説明させる際には、「なぜ、そうしたのか」という疑問を投げかけることで作品に深みが出た。
- ルーブリック評価は、子どもが目指すゴールが明確となるため、有効な評価方法であった。また、フィールドマップは、子どもの発言や行動を見取るのに最適であった。
- 学習で達成すべき基準を指導者が明確にもち、児童の発言や活動の様子、題名や作品について考えたこと、友だちの作品を鑑賞したワークシート、ふりかえりカードなどから総合的に評価することが大切だとわかった。

#### (2) 今後の課題

- 年間指導計画を立て、教科書に沿った指導を行うとともに、系統を意識した必要な技能を習得させておくことが必要であることが分かった。
- あまり使ったことのない道具や画材の適切な使用法や表現の基礎・基本となる技法について、さらに研究を進めていく必要がある。
- 題材に応じた鑑賞方法を考える必要がある。また学習中における鑑賞のタイミングも、子どもの集中を途切れさせないように工夫する必要がある。
- 題材に応じた評価方法の選択をする。
- フィールドマップやルーブリック評価を取り入れ、実践を行ってきた。特にルーブリック評価については、評価規準の文言を丁寧に考えなければ、子どもが混乱してしまう。
- 指導者と子どもの両方で、単元での目指すゴールを共有し、達成規準をはっきりさせる。